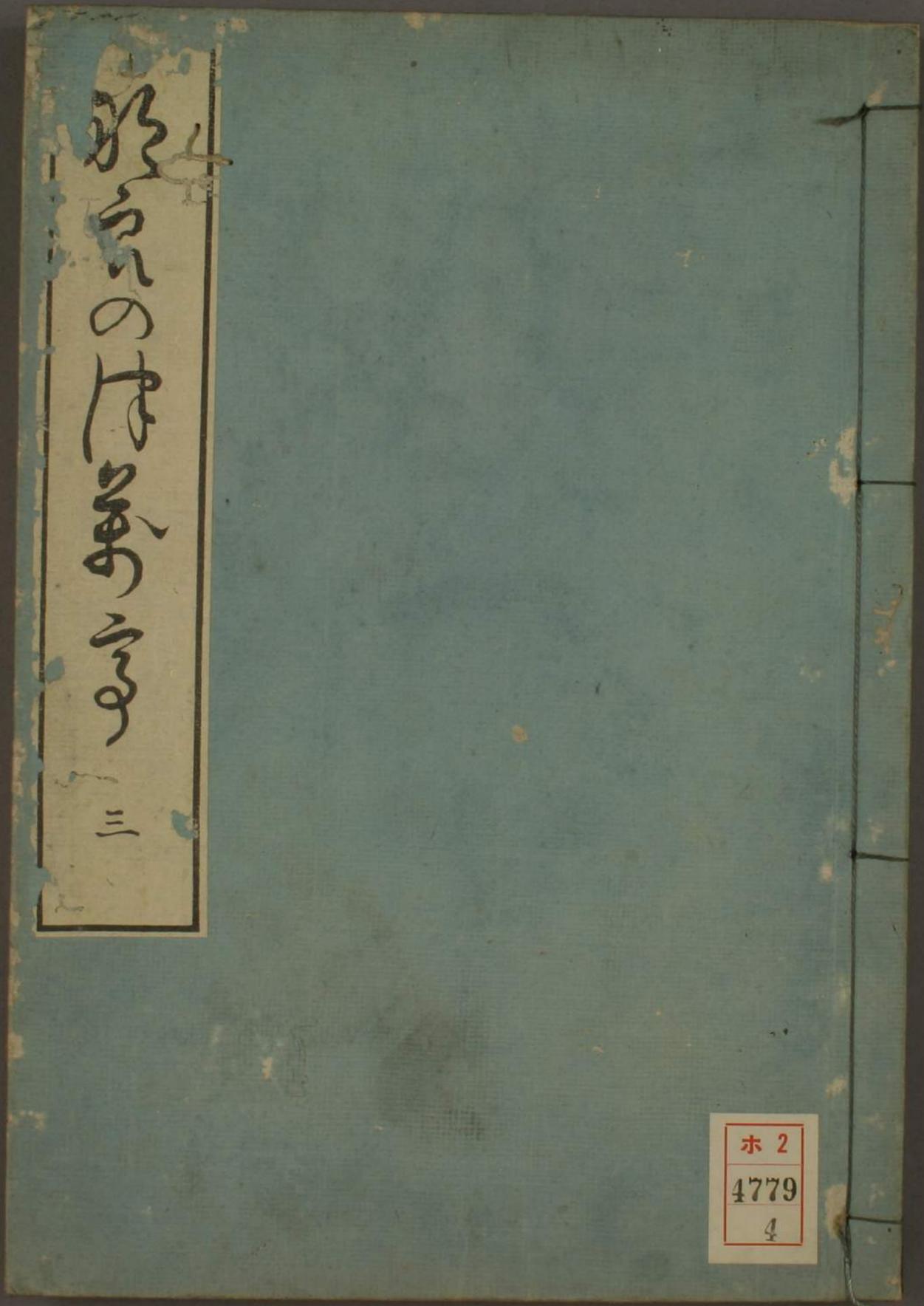
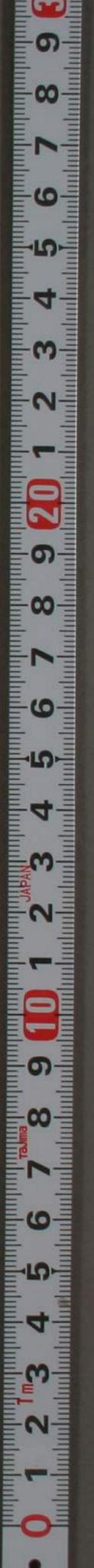


KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



三 卷 新 刊 史 記 卷 之 一

ホ 2
4779
4



門 赤 2
流 4779
巻 4

櫛乃孀年下

〇川

江藤文庫

舞の下になくつし時つ風天つのもるえの方丸ねきつらん
 一かきふさうあねこまかたりあて舞うつし
 あわねはーてまう月
 上は同ーるつーはまうつーじか一巨勢山のつらーはまうら
 ねたーあーまーの
 つらにるてねりつらこそ乃まきせを同九山代の人母のまきねれら
 ままはるりつ
 浩るらら妙舞し一〇方止のまのこゆそるあつり
 杖らりけで つつ 神居のいせのまあらあひつつあも。れおけ
 〇方九世心のかういわきへ紐の思よいつりをわハ
 かまういわきへ。和録 鉄録お記まかえまかたがれ
 つつ乃は 櫛の同じ〇方ちらせひーや
 乃角のつちのまも。おまこころまうら
 きてねへや。和まの比ハ麻の角を解てけかえらうの角のもまえりやれハまののあひ
 たよも。をかりてり。〇方ニんたをを彼方せへ。や。かちりつ。おあひもあはれてねへや
 其布しちうハの短洋。〇方七ミをんり。まこころあまに
 御んえらう
 田

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏贈

かひて ○万七 ぬきとす月のあひひてほりき 月立ほりて○八月
なつたそとさけしとほりき しらすきよけぬら

つちをちのきまの ○ちのきまの ねまひのまうし月とちよけり月をたらしの
つちをちのきまの まうしつきたくあむよ。月夜。和月水依は利

つきあせぬ 月甲子。○万十月かぬちちよ味 月日ぬき○万
あふあハ。月夜のつきまかり 十七 春のつらふ

つきひえせ 月日擇。○万十月日えりあひ つちをちのきまの
あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの 月を伴。○万廿 げしきけけつつきまかり
あふあハ。月夜のつきまかり

つむい ○万二のうわし 飄くもいすきあふりりんすて。字淺藤 ね幸自廿。日牛馬
ま下 旋毛 教幸自。日北而 遷千 ね峽空時 飄風忽起。日 仁 後 於是 飄風忽起

つちをちのきまの 雲の消き。○万二 ねりちるあ つちをちのきまの
あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの つちをちのきまの あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの つちをちのきまの あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの つちをちのきまの あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの つちをちのきまの あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの つちをちのきまの あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの つちをちのきまの あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの つちをちのきまの あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの つちをちのきまの あふあハ。月夜のつきまかり

つちをちのきまの つちをちのきまの あふあハ。月夜のつきまかり

葛茶三万の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし
にも葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし
而言葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし
申後試口お葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし
このまゝありたり
あくる朝一わたり

乃わ
○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
○後祀堂で三年三月より始て毎年太宰府二十万屯輪幕座い
常之常三。○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
たひいつをむむつり葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし
乃帯ありありを葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし

結つき
○月十六 ちつき。日七酒坏。日八さつきに折を流
○日休 ひとりのついでいさきぬとわいのわいの
○和抗 豆久五 葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし

○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
○後祀堂で三年三月より始て毎年太宰府二十万屯輪幕座い
常之常三。○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
たひいつをむむつり葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし
乃帯ありありを葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし

結つき
○月十六 ちつき。日七酒坏。日八さつきに折を流
○日休 ひとりのついでいさきぬとわいのわいの
○和抗 豆久五 葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし

○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
○後祀堂で三年三月より始て毎年太宰府二十万屯輪幕座い
常之常三。○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
たひいつをむむつり葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし
乃帯ありありを葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし

結つき
○月十六 ちつき。日七酒坏。日八さつきに折を流
○日休 ひとりのついでいさきぬとわいのわいの
○和抗 豆久五 葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし

○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
○後祀堂で三年三月より始て毎年太宰府二十万屯輪幕座い
常之常三。○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
たひいつをむむつり葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし
乃帯ありありを葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし

きのあやふしつとわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
○後祀堂で三年三月より始て毎年太宰府二十万屯輪幕座い
常之常三。○カミ一ぬいのついのわいのわいのついでいさきぬとわいのわいの
たひいつをむむつり葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし
乃帯ありありを葛茶三萬の額と三萬越付本お及る辨夏此後。万九の三月二日の飯おりとうこし

○氏

て
マハ。日十五杖をきば一ぼへるわらもぬぬぬもまみまらつちつちつたりたり
て
お。万十ちちの川やほのかりのさつちつちつたりたり
わりの。日十五杖をきば一ぼへるわらもぬぬぬもまみまらつちつちつたりたり

はさあしらのんちへきん。方七思

うためてつうねわら。衣服知

わさうえまけ。袖伊勢都のゆるよひ

利曲。古くあつゆりまろつ山ゆり。

あまをりうわ

つらさふちるけと

手。方五。たまかえのちとえぬれ

さけひらぬうらなけ。あつゆり

月ぬ。うらなけ。つらさふちるけと

思。うらなけ。つらさふちるけと

む。月。つらさふちるけと

つらさふちるけと

をさう。み。つらさふちるけと

さう。つらさふちるけと

も。つらさふちるけと

て。つらさふちるけと

てがや

手風俗。見あまふりハゆるすハナリ。方五。あま

さう。い。つらさふちるけと

日。代。つらさふちるけと

街。つらさふちるけと

木。つらさふちるけと

手。つらさふちるけと

て。つらさふちるけと

手。つらさふちるけと

て。つらさふちるけと

取。つらさふちるけと

と。つらさふちるけと

あひ。つらさふちるけと

して。つらさふちるけと

ころ。つらさふちるけと

く。つらさふちるけと

こ。つらさふちるけと

に。つらさふちるけと

あ。つらさふちるけと

仁後 母和雄編 夕暮取 女抄 貴之足 乙女 方三 ちるけと

ちんかか... 伊ちん... ばく... ちんかか... 伊ちん... ばく...

なづむ

順之。日仁後。ちりて人さふぬとらせし。つらうの舟をらせ大い舟られ
古中。那豆美ゆまれ。時の歌う。ゆけい。つらむ。方二。いぬさく。みみ
ちりこ。日三。ちりけのなをちりみす。日七。ちりさ。な
つむ。古上。天照大神。堅庭。老龍。向股。臨那。豆美。味。雪。麻。敷。而
二。廿。女。撫。而。哭。之。方一。ね。さ。ま。り。り。か。さ。た。ま。し
。日五。ま。ん。ち。ち。り。の。こ。も。と。ち。か。ま。な。さ。し
さ。し。ら。と。い。花。の
なづに
さ。ま。て。り。け。む
か。つ。せ。へ。ぬ
なま。し。の。を

なづに

何者。に。方。四。い。ひ。な。む。う。ゆ。た。り。う。た。に。せ。む。人。目。ゆ。と。と。ち。こ。く。わ。せ。む。日。五
む。に
ろ。ち。ぬ。も。こ。ゆ。も。む。ち。に。せ。む。ま。ま。れ。の。う。ら。ま。に。う。た。や。も。ま。と。ち。に。せ。む。む。乃
う。く。た。も。や。へ。む。く。ら。う。ま。け。ぬ。
ち。ち。く。ら。う。ま。け。ぬ
。方。五。う。た。ち。ま。さ。き。さ。め。あ。ん。さ。な。う。ま。い。と
う。の。ぬ。い。う。ま。れ。方。二。は。ち。門。に。む。ち。ち。ら。け。け。山。日。む。ま。を。尺。を。ひ。ふ。ゆ。き。こ。日。五

なづに

何者。に。方。四。い。ひ。な。む。う。ゆ。た。り。う。た。に。せ。む。人。目。ゆ。と。と。ち。こ。く。わ。せ。む。日。五
む。に
ろ。ち。ぬ。も。こ。ゆ。も。む。ち。に。せ。む。ま。ま。れ。の。う。ら。ま。に。う。た。や。も。ま。と。ち。に。せ。む。む。乃
う。く。た。も。や。へ。む。く。ら。う。ま。け。ぬ。
ち。ち。く。ら。う。ま。け。ぬ
。方。五。う。た。ち。ま。さ。き。さ。め。あ。ん。さ。な。う。ま。い。と
う。の。ぬ。い。う。ま。れ。方。二。は。ち。門。に。む。ち。ち。ら。け。け。山。日。む。ま。を。尺。を。ひ。ふ。ゆ。き。こ。日。五

なづに

直し。し。ち。な。ら。し。の。ま。さ。こ。の。あ。ま。ら。い。は。は
。方。五。う。た。ち。ま。さ。き。さ。め。あ。ん。さ。な。う。ま。い。と
う。の。ぬ。い。う。ま。れ。方。二。は。ち。門。に。む。ち。ち。ら。け。け。山。日。む。ま。を。尺。を。ひ。ふ。ゆ。き。こ。日。五

なづに

直し。し。ち。な。ら。し。の。ま。さ。こ。の。あ。ま。ら。い。は。は
。方。五。う。た。ち。ま。さ。き。さ。め。あ。ん。さ。な。う。ま。い。と
う。の。ぬ。い。う。ま。れ。方。二。は。ち。門。に。む。ち。ち。ら。け。け。山。日。む。ま。を。尺。を。ひ。ふ。ゆ。き。こ。日。五

なみ

流傳の言ふかゝるま

なみ

不任者推之云々

あまのりりなまみへみ

ながり

長壽人云日往たままらうちのあう

な

まじとねほほ

まじとねほほ

な

寝者云いんちのさむをこころのたし

あせ

わうたをん何をぬいささいまつくまてに

ちるちせ

まげ

七賢人云いんちのさむをこころのたし

あせ

昔七賢 嵇康 阮籍 山濤 劉伶 阮咸 向秀 王戎

あせ

なみ

なみ

なりえひ

なみ

るのかりえひを。日五のりを

なみ

車馬未可動。日十九作田。ちりのふおよまつり

なみ

たの ちるちせ

まむ

あうひもしくとのさううう

えぬりまをるちるちせ

けきに。日十橋をちり

あハちちんちうれむ

あハちちのけぬへき

あハちちのせこち

あハちちのせこち

あハちちのせこち

ながちよん

長世の万ふうぢいさしめちたつきを
おさちれハチキ世のぢいさしめ

ちぢいさし

永の万サうぢい
ささちるまのぢいさし

いさ ちぢいさし

長島之ちぢいさし ちぢいさし
のちぢいさしを。日神代 気噴之披露

ちぢい

ぬゆけや

五世往哉の万ふうぢいさし
おさちれハチキ世のぢいさし

ちぢい

七世之ちぢいさしを
おさちれハチキ世のぢいさし

ぬ ちぢいさし

長道のちぢいさしを
おさちれハチキ世のぢいさし

わがち

長道のちぢいさしを
おさちれハチキ世のぢいさし

ちぢい

ちぢい

ちぢいさし

長島のちぢいさしを
おさちれハチキ世のぢいさし

ちぢいさし

ちぢいさし

ちぢいさし

ちぢいさし

ちぢいさし

七世之長道のちぢいさしを
おさちれハチキ世のぢいさし

水葱 あぶら 一之耐せまふ教日。式供養雜菜水葱四把。本草時珍曰水葱狀如鹿葱其花或白或紫蓋

赤けれん。教養中諸云浮菖入及せも中六七月未采は舊泐後無根了也。俗云あぶらも桔梗と云

亦有百石者 あぶら 五斗下あぶらと云のあひぬくと云ふはたつたもの

東云。方寸心まきかりに種まらあぶら あぶら 甲いりてあぶらと云をこらあぶらと云まら

あしかりあぶら あぶら 石竹。和聖一名大葉。あぶらと云は

あぶら あぶら 七命草。あぶらと云は

あぶら あぶら あぶらと云は

に舟入へころしちまひにりしとせら。日はけひの海の花えへりし。一本はむさしの海

船のハナラし。と日和としもはくり成平まふをこころのふらふらなれり。舟のハナラし

ゆのゆり
あまのこころにのちたはれ
ふらふらなれり
舟のハナラし

和親表し。万丸にひたし
せらふらふらふらふら
こころのふらふら

うにきいほのたわもあはれりゆのふらふら
とせらふらふらふらふら
こころのふらふら

にのゆめ
にしぎ
こころのふらふら
こころのふらふら

いになぬふあけつとむさふら
西のふらふら
こころのふらふら

佐能みそ和土まふちあはれり。和親まふ昔土布細番四直 けふ
こころのふらふら
こころのふらふら

赤まふちてとせらふらふらハナラし。山陽丹波の白つ丹之おし
こころのふらふら
こころのふらふら

出て。日三金殿
いんあつみ
こころのふらふら
こころのふらふら

にひらろ
新おも。日三金殿
こころのふらふら
こころのふらふら

むらうのこころ
にきり
こころのふらふら
こころのふらふら

こころのふらふら
こころのふらふら
こころのふらふら
こころのふらふら

けい景登
こころのふらふら
こころのふらふら
こころのふらふら

こころのふらふら
こころのふらふら
こころのふらふら
こころのふらふら

たきつけて
煮らして
酒酒一杯はを一杯ね取且其
あなまきまらしかや
あなまきまらしかや

酒酒一杯はを一杯ね取且其
あなまきまらしかや
あなまきまらしかや

○奴

ぬぶつて
ぬぶつて
ぬぶつて

ね 福入てあんく。方十風のちひてそよちりかき。 福ざき 新し。方土ちんやちり神のち。

。日二こひいとむわしそちちかひひる。そゆ多し。 福ざき るを福ぬ日とす。日十三

天つちの神をうわす 福ざひ 願し。方八先のわすこも 福さけ 疾者し。方八はく

福くもまへちみ 福ひんらひひよ 福さけ きんらと福さけ

ハ括の花ちよとき 福もごろ 福さけ 慈惠し。方二

きりふとよむ 福もごろ 福さけ あけハ福さけろふし

。若きね柳を乃ねたけ 福さけ 福さけ 後後紀丁宮丁

よへちのすねれうのぬの 福さけ 福さけ 羨し。日雅累や乃

人福らよまのちつけ 福さけ 福さけ 按し。方九のわしれ

まつたの福らひ 福さけ 福さけ さうゆりか報え負而

ひぬ力の 福さけ 福さけ 福さけ

上野 福さけ 福さけ 福さけ

ぬ天でせり 福さけ 福さけ 福さけ

つくもの 福さけ 福さけ 福さけ

けの福 福さけ 福さけ 福さけ

すけ 福さけ 福さけ 福さけ

中竹の福 福さけ 福さけ 福さけ

この福 福さけ 福さけ 福さけ

ちを福 福さけ 福さけ 福さけ

か 福さけ 福さけ 福さけ

福 福さけ 福さけ 福さけ

とをては 久永経曆し。○方十三 月七日もかりりけしとも久永のそ
。文選 結撃 ^{ヒツツ} ひさにぬる

この山乃よりいやゆしころ。○日十八 朝高のきころせぬを
いほひさにちかす。はち

ひささちらば 久永在者し。○方五 竹たらの女のたのいの入
いあねいにいけす

ひ 竹島し。○方十三 世衣のひいとたる。ましてなけきつるかも ^{ヒツツ} 日五
てまらふい鼻し。いほひにあるとあしぬひけうきすていさか。源太ふとのあ

わたし ^{ヒツツ} 日十三 日 恒角 常をばし。いほひにあるとあしぬひけうきすていさか。源太ふとのあ
をくともわりきてさか。日大 ねほき。いほひにあるとあしぬひけうきすていさか。源太ふとのあ
と乃、たちらるるるとり。○常陸。俗のいほひにあるとあしぬひけうきすていさか。源太ふとのあ

いた 直土。いほひにあるとあしぬひけうきすていさか。源太ふとのあ
ひたし。○日五 直土。いほひにあるとあしぬひけうきすていさか。源太ふとのあ

ひたし。○日五 直土。いほひにあるとあしぬひけうきすていさか。源太ふとのあ
ひたし。○日五 直土。いほひにあるとあしぬひけうきすていさか。源太ふとのあ

たるをいし山家のそのく今さまわうちといふとを湘一てきかさくひり。方三
まのあふのーはやき衣のわれたうをそくあわいさまきかなおん。暮八
をいし。字書葛蔓生根可食。壺車。方一ふくーとよこふくーら
為可作布。これなるいふとす。和鏡。加奈布久之。犁鐵。
又土貝。まあちを。まさやくら。た。方四。一。あはまちをや
した。いぬ。ぬさ。さ。

ふげは 倉。古上。ち。あはまにこやう。た。た。あは
あま。器。ち。し。た。方四。一。あはまちをや
した。いぬ。ぬさ。さ。

乃 船之舳。方十。ふり。の。い。き。り。し。き。あ。日五
舟の舳。い。き。り。し。き。あ。日五
舟の舳。い。き。り。し。き。あ。日五

ふちよろひ 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

ふちまき 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

ふねづか 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

物 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

か 船暫借。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船暫借。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船暫借。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

ふちまき 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

ふねづか 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

ふねづか 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

ふねづか 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

ふえぬき 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

ふえぬき 船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五
船装。方十。の。い。き。り。し。き。あ。日五

ぬー。目上こころまの心すのちまこにゆけよ
まのなほ 志望く。方七まけをこし
あかりなりけけかじ

まかす 勿し。方六ほろきまぬをあらまうけい
ま 目し。目神代紀八十巻林
皆不傳目務お洞

ありけいねハ。目端あとりるこころをへー
まなかひ 目之間
方五いづく

よりきりりーとのうまなまひよとぬくまで
まのなほ 験し。方十六
をら門乃

つりりー小田をえむうけまなふことなれて
ま 洪し。方五ましもあれも
い。目神代紀あめりち

ちこほこねをり。まなつこハ目之まき
ま 目三まはらそ乃うけをみりねこー
うらまを後人かとりつつかひ。目上

りりまー。ねとけけ ちくらのを
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

るいぬ。ぬとどろー ちくらのを
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

目三まはらそ乃うけをみりねこー
うらまを後人かとりつつかひ。目上

すれらそをのりーそろもわれりな
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

約とけりへきまはらそもこひてよ
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

すら之よし。方六ちきまわぬハまなこころ
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

かハ母のまなこころあさもよー本の川
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

二かめー支。式祝國紀八十巻
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

八百万持金乎生繪以魚 祥系系子火結生繪
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

うけのさをほーまつきといわぬもけり
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

あまこまいてやあまけりつーふるま
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

源まいつか ましやもむいたけよ
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

よまのあハ山し。日 仲哀紀 有
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

之眼し。史記卓文君眉毛不加黛如望
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

ぬりまけるうくこひー君よあるかも
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

むとこひこりまを。目し。まねき人乃まぬ
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

いーへよりかこころさありーち
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

遊仙昨日眼皮晦今我良人見
まのなほ 間使し。方九あかりげん人あ
ちし家人の喜あきらむすつ

よかぢる大さきうまらにまきこしとちをせまらうなり。私に解悦存員去、自格を詠
留言言ふ也。○方十六むきわんをかまらうむうう本とちうや乃きとをかきえりむ
め。日九すつかりつひよてあれやとつり乃り入こ改てまらとりふちも。源うさ
てかふるふるこく乃ちうにまらうやうにち浮あちうられそのおれありや。伊つ
いつ乃りつよかけしまらうけりこけらうな
いもえさるまに。日すらうまらぬよいぬへん
さーまきこし。○方十五いかりかりまきこしはてのむきこし
かきこし。○日八さむむはこまてさーかー
をちひこ

まひにのあて次

まひにのあて次
かあつくまひのあて次。○方十五まきひくれてこ

まぢぢぢぢ。私にたまふ古。織細妙。○方七ふ乃る言はら乃まをこちうは神乃ふ
ほたー有ハなうようちけりむ。日十一ほたこいさちり
うふまぢぢぢぢ。○日十五まぢぢぢこころ乃えはまきこし
はかこまきけりむとらやをまきこし。○日十ちう山乃まをまきこし
うーこころまきこしのまぢぢぢけりむ。○日十五まぢぢこころや乃まきこしんんんん

まかき

まかき
こころまきこし

けー門よりか
まきこしーら
まきこし
まきこし
まきこし

日六長柄乃るまきこし
乃こし
まきこし
まきこし
まきこし

まけいほ

まけいほ
まけいほ

まや
まや
まや
まや
まや

まおころり

まおころり
まおころり

いそひろめけむ。替替をこあこし
まかこ
まかこ
まかこ
まかこ
まかこ

え ちまめえきまめし。万十まきめえも

時。古下。やまか。にまけるあを
ちまきい。やまに。つせ。た

ぬ。くもあ。う。万七。杖。さらふ。かけ。にも。せむ。し。つ。まき。から。あ。か。乃。花。を。これ。う

つ。け。む。は。つ。つ。や。と。ま。ま。き。一。ち。そ。一。こ。ら。う。も。花。え。さ。う。ら。ん。む。を。う。へ。う

らん。む。は。元。う。ま。一。四。も

ま。ま。き。一。も。け。も。し。し。馬。さ。う。し。万。七。ち。う。き。ま。さ。む。こ。ま。さ。ま。せ。む

ま。ま。ご。う。え。孫。枝。し。物。の。り。ま。こ。ら。つ。の。ね。を。り。ま。ま。ご。う。え。も。ら。う。一

ち。ま。き。に。ま。よ。る。節。の。ゆ。あ。ち。ま。き。に。ま。よ。る。ま。ご。う。え。も。ら。う。一

。和。鹿。茸。状。似。水。松。豆。乃。万。太。一。式。も。出。り。松。之。花。も。万。七。ま。つ。乃。花。も。花。う。け。ま。一。も

さ。ぬ。き。う。と。き。ち。う。き。こ。ま。ま。つ。乃。花。の。つ。ち。を。う。ら。ん。む。に。さ。き。き。つ

ま。つ。乃。花。の。ま。ご。う。え。万。十。ち。の。乃。う。ま。ら。う。れ。も。ち。ほ。ま。め。乃

ま。つ。乃。花。の。ま。ご。う。え。万。十。ち。の。乃。う。ま。ら。う。れ。も。ち。ほ。ま。め。乃

乃。つ。か。し。ろ。き。か。し。よ。ま。檀。し。日。に。徳。記。ち。ん。や。い。一。う。ち。の。わ。り。り。わ

あ。の。も。と。あ。き。ゆ。い。れ。た。り。せ。よ。た。て。る。あ。ご。さ。り。ま。ま。ゆ。い。き。ま。ら。ん。と。ん。が

と。し。し。い。の。カ。ニ。と。き。か。る。を。せ。り。ま。ゆ。い。わ。れ。ひ。う。う。ま。ひ。と。ま。ひ。て。い。ち。い。と。む。も
。は。十。二。入。る。あ。ら。り。さ。け。い。ね。い。ち。う。ま。ゆ。い。と。り。て。か。け。り。ね。ら。ら。よ。け。む。は。せ。を
ふ。ち。の。細。川。山。と。つ。ま。も。こ。う。つ。ま。う。ま。て。人。の。あ。ら。ま。よ。は。せ。ち。ち。り。り。あ。ら
ら。ま。あ。こ。つ。つ。ま。け。こ。り。も。う。人。り。わ。れ。を。り。ち。ま。む。伊。あ。つ。さ。う。ま。わ。つ。き
こ。う。と。一。を。て。つ。う。て。う。こ。う。と。う。こ。う。と。一

ま。つ。乃。花。の。ま。ご。う。え。万。十。ち。の。乃。う。ま。ら。う。れ。も。ち。ほ。ま。め。乃

らか **まぐらたち** 松本刀といゆる時花乃月よりまたくくいへる太刀を
む。方サまぐらたち。よりたき。は九かけえきの

てたけきつるかも **まぐらうこき** 松本。方土。まぐら。のまぐら。うこき。て
よるね。の。この。な。ひ。の。ま。ぐ。ら。う。こ。き。て

はらけきつるかも **まぐらうこき** 松本。方土。まぐら。のまぐら。うこき。て
よるね。の。この。な。ひ。の。ま。ぐ。ら。う。こ。き。て

